

## 1 研究主題

北海道中学校長会 基本主題  
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」  
を受け、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成（単年度計画）

## 2 研究推進の概要

- (1) 学校経営方針・グランドデザインの交流 [5月]
  - ・毎年度、継続して取り組んでいる。
  - ・クラウド上での閲覧を可能としている。
- (2) 第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会 [9月26・27日]
  - ・12名参加（運営委員1名、次期開催地委員長1名・視察団4名含む）
  - ・大会参加報告による交流、研修を深めた。
  - ・次年度の函館大会開催に向けて道中との引継ぎ等実施。
- (3) 第76回全日本中学校長研究協議会香川大会 [10月23・24日]
  - ・2名参加。
  - ・大会参加報告による交流、研修を深めた。
  - ・参加予定者2名（山口会長・白川事務局長）都合により欠席
- (4) 実践事例交流会 [1月6日]
  - ・「『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成」をテーマに全校長がレポートを作成し、それらを活用して有意義な研修を行った。
  - ・11月～12月⇒テーマの周知、レポート作成の依頼、実施要項の提案、原稿集約、レポート集の作成、配付

## 3 研究の成果と課題

### <成果>

- ・函館市中学校長会全会員の共通理解のもと、研究主題を共有し、一体感のある研究推進ができた。
- ・クラウド上のグランドデザインを参考に各校長の学校経営方針を学び合うなど、自校の経営に生かすことができた。
- ・メール等で随時情報交換し、効率的かつ協力的な研修部体制を維持することができた。
- ・北海道中学校長会胆振・室蘭大会の成果を受け、函館大会に向けて実行委員会研究部として、今年度のうちにでき得る限りのことを推進している。

### <課題>

- ・新年度、現在の函館地区研修部会員の体制が変わるため、改めて、函館大会研究部として、再スタートする必要がある。

## 1 研究主題

「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」  
ウェルビーイングな未来を拓く子供を育む学校経営の推進

## 2 研究主題設定の趣旨

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むことが緊要である。「みんな」が示す主体は、学校教育の未来を切り拓く中心的存在である学校の教職員はもとより、学びの当事者である子供はもちろん、学校を支える主体でもある、保護者や地域住民等も含まれ、「社会に開かれた教育課程」や「個人と社会のウェルビーイングの実現」とも深く関わる（論点整理より）。函館市中学校長会では、「ウェルビーイングな未来を拓く子供を育む学校経営の推進」のため、会員相互による不断の研鑽を積み重ね、定例研修会や実践交流会などを通じて、経営上の工夫や方策について学び合い、連携を深め、より一層、ウェルビーイングな中学校教育の充実を図る。

## 3 研究内容

### (1) 「社会に開かれた教育課程」の実現

教育目標を実現するカリキュラム・マネジメントを推進し、子供たちが実社会での経験を通じて主体性を育み、「ウェルビーイング」の向上と、持続可能な社会づくりを目指す。

### (2) 「個人と社会のウェルビーイング」の実現

個々人が主体的に目標を設定し責任ある行動をとる「エージェンシー」を育成し、変化の激しい不透明な社会において、自ら判断し、行動し、責任を持つ力を育成する。

## 4 研究推進計画

### (1) 組織研究

- ・令和8年度第67回北海道中学校長会研究大会函館大会の成功
- ・令和8年度第77回全日本中学校長研究協議会長野大会への参加協力
- ・研究内容や研究の方向性の決定 ・研究内容にかかわる各学校の実践集約
- ・研究計画による調査・研究、調査結果の分析 ・研究内容にかかわる実践の交流とまとめ

### (2) 月例研修

- ・学校経営（経営方針・GD）にかかわる交流、実践事例交流会の計画・推進
- ・R9年度道中研究大会の準備・計画推進

## 5 研究組織

函館市中学校長会研修部・事務局を中心に、北海道中学校長会研修部と連携を図りながら研究を推進する。

## 6 その他

函館市小学校長会、渡島中高連絡協議会等との連絡・連携も図る。